

6. 患者急変時対応シミュレーショントレーニングに対する階層分析法を用いた客観的評価

山形県立河北病院 放射線部 ○小野琴絵 齋藤亮 永沢賢司
 山形県立中央病院 放射線部 荒木隆博 大浦慎太郎 太田郁美
 山形県立新庄病院 放射線部 樋口裕平

【背景】

造影 CT 検査における重篤な副作用の発生確率は 0.004%とされている。患者急変時対応シミュレーショントレーニングでは重度に分類される副作用を対象に迅速で的確な対応ができることを目指しており、中央病院の医療安全で定められた患者急変時対応マニュアル等に沿って行っている。トレーニングの成果を客観的に数値化するため、AHP(階層分析法)を用いて評価することにした。

【目的】

患者急変時対応シミュレーショントレーニングを実施し、受講者からの評価をもとにトレーニングの有用性・効率性・満足度を検討する。

【方法】

患者急変時対応シミュレーションシナリオを作成し、模擬患者を設定して CT オペレーター役を若手診療放射線技師 1 名、連絡係役をベテラン診療放射線技師 1 名が担当し、シミュレーションとデブリーフィングを繰り返しながらトレーニングを行った。

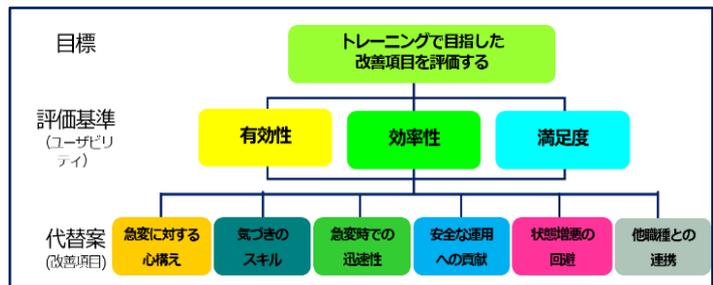


Fig.1 階層構造図

トレーニング中は RT 用患者急変時対応ツールを用いてシステムティックに連絡・報告が行えるようにした。2018 年からこれまでトレーニングを受講した 6 名に階層構造図(Fig.1)をもとに作成したアンケートを実施し、AHP:階層分析法を用いてシミュレーショントレーニングの評価を実施した。

【結果】

アンケートの結果として若手診療放射線技師は本トレーニングに対し効率性を重視しており、特に急変時での迅速性が改善されたと評価していた。ベテラン診療放射線技師は本トレーニングに対し満足度と有効性を重視しており、特に状態増悪の回避が改善されたと評価していた。受講者全体のアンケート結果(Fig.2)として特に急変時での迅速性や状態増悪の回避、他職種との連携のスキルが改善されたと評価していた。患者急変時対応シミュレーショントレーニングは救急部看護師の協力もあり、受講者にとって大変有意義なものとなった。若手診療放射線技師の患者急変時対応スキル向上にも大きく寄与していた。

今後の方針として、中央病院では造影 CT 検査後 15 分は院内に留まってもらい、患者急変時に迅速に対応できるような体制をとることになった。河北病院ではこれまで実際に造影剤副作用を想定したシミュレーションを行ってこなかったため、今回の発表を機に看護師を含めてシミュレーショントレーニングを実施したいということになった。

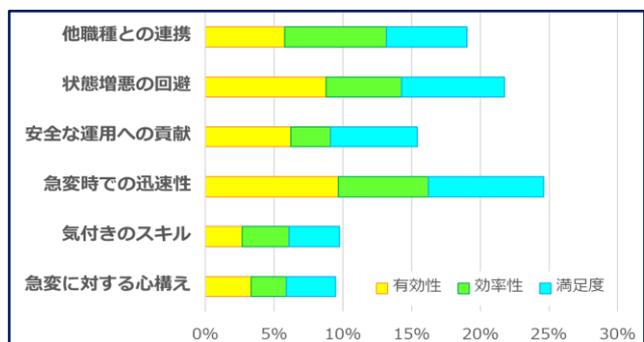


Fig.2 受講者全体のアンケート結果

【結語】
 今後も我々は患者急変時対応シミュレーショントレーニングを継続し、県立病院の診療放射線技師全員がチームの一員として、造影剤による重篤な副作用が招く防ぎえる死の回避に貢献できるよう努めていく。